

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立楠見小学校
校長氏名	梶本 久子
作成日	令和3年2月26日

1 教育目標

正しい人権意識や、豊かな心を持ち、自ら考え実践するたくましい子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査で県平均との差を一桁以内にする ・授業がわかる(児童90%・教師100%)	・学校が楽しいと感じる(児童90%) ・「心のとびら」の活用100% ・いじめの解消率100%	・毎日朝ごはんを食べた(児童90%) ・積極的に運動を行うよう計画し、実践した(教師90%)	・学校の様子がよく伝わった(保護者90%) ・地域・中学校区学校と連携した取組を具体的に実践できた(教師80%)
重点目標	確かな学力の向上 ◎基礎・基本の確かな定着 ◎主体的に学ぶ授業の推進 ◎読書活動の推進 ◎家庭学習の定着	◎道徳教育充実と人権意識向上 ◎いじめや不登校の未然防止、早期発見、早期対応 ◎組織的・継続的な生徒指導による児童の規範意識の高揚	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危機回避能力の育成 ◎食育の推進	◎家庭・地域の連携を充実させる ◎地域の人材、資源活用を推進 ◎学校運営協議会を教育活動に生かす
取組の状況(D)	◎学び合いの授業づくり推進のため、外部講師や和歌山大学共同研究事業講師を招聘し、研究授業や協議会を充実し実践力を高めた。 ◎学びつ子タイム・自学自習システム・放課後学力フォローアップ事業で補充学習を行う ○「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」の充実を授業で実践し「楠見スタンダード」を徹底する ○学びのルール(楠見つ子スタンダード)の定着を図る ○家庭学習の手引きをもとに、保護者と協力しながら定着を図る ○読み聞かせ、家庭読書を推進し、読書コーナーを充実する	◎「心のとびら」「生きる力」の活用や体験活動を通し、道徳の時間の授業充実に向けた研修を実施するとともに、学校全体で道徳教育を推進する ○いじめアンケートを年間に3回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める ○SCやSSW、関係機関と連携し、不登校児童の対応にあたる ○情報モラルやネット社会に潜む危険性について、保護者とともに学ぶ機会をもつ ○生活アンケートや児童会の生活目標振り返りを通して、規範意識を養う ○人権問題学習を組織的・計画的に行う	◎基本的生活習慣「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨、定着するため、生活リズムチェックを2回行い、保健だより等で啓発した。 ○関わり合い・技能・運動量・楽しさのバランスを考えて体育授業の工夫を図り、運動に親しむ習慣をつける ○休憩時間に外遊びを奨励する ○避難訓練や交通安全教室を計画的・実践的にを行い、危機回避能力を育成する ○養護教諭、担任、栄養士の連携で食育、健康教育の充実 ○家庭専科・栄養士が連携して「わかやま給食グランプリ」にむけて、食育の授業や献立作り等に取り組んだ。	◎各種便り等を通して積極的に学校の情報を発信するとともに、授業や行事等を公開したが、HPの更新がなかなかできなかった。 ○地域活動へ参加し、積極的な交流を推進し、多様な生き方を学ぶ ○保幼小の接続、中学校区での小中、小中の連携を推進・充実する ○学校運営協議会委員を通して、婦人会や老人会の方を講師やゲストに招き、地域に残る文化財等、ふるさと和歌山・楠見を学ぶ機会をつくる。(校区探検・まち探検・社会見学・清掃活動・歴史教育・校外学習(歴史、漁業)・花壇づくり) ○PDCAサイクルの評価システムにより、学校運営の改善を図る
取組の成果と課題(評価結果(C))	・県学習到達度調査における県平均との差が依然大きい。 4年国語-4.8p→-7.1p 算数-3.6p→-6.2p 5年国語-9.2p→-10.1p 算数-9.0p→-4.9p 理科-10.1p→-11.1p ・わかる授業、問題解決型の授業を実践したと思う児童79.7%(-2.1%) 教師100%(+20%)保護者80.9%(+2.6%) ・低学力児童の学力補充が不十分であった。	・学校が楽しいと感じる児童が93%で、昨年と同様であった。 ・いじめアンケートの実施、保護者からの相談によりいじめの早期発見・解決につながった。解消率100% ・不登校及び不登校傾向の児童への早期対応の徹底、SCやSSW、関係機関との連携で不登校児童の対応ができた。 ・教科横断的な学習の視点をもって道徳の力・力・力を見直し、計画的にすすめることができた	・朝食摂取率がさらに上がって95%になった。 ・歯磨きが定着していない児童が多い。 ・コロナ禍で運動量を保障した体育学習が難しい時期があった。 ・総合的な学習の時間や家庭科・生活科で食育を推進することができた ・命を守るための危険予測・回避能力、行動力は高まったが、自転車乗車時のヘルメット着用率がなかなか上がらない。	・学校の様子がよく伝わったと感じる保護者は83.7%(+11.7p)であった。HP更新をはじめ、タイムリーな情報を積極的に発信する必要がある。 ・全学年で地域の方々との交流、地域とかかわる学習ができた。 ・地域の保育所との連携で入学児童の状況を事前把握できている。 ・保幼小連携のための行事や地域の方々との交流がコロナ禍のため、実施できなかった。
改善方法(A)	・確かな学力を身につけるために、主体的協働的な学習スタイルを定着させる。 ・どの子もわかる授業づくりを目指す。 ・基礎学力定着のために、学力補充「学びつ子タイム」で個々の能力・興味に合わせた学習や学び直しを実施する。	・暴言・暴力を見逃さない。 ・いじめ、問題行動には、迅速に対応し、保護者に速やかに連絡する。 ・人権意識の高揚、いじめ防止につながった実践を共有し、学級経営に生かす。 ・ネット社会に潜む危険性について保護者と共に学ぶ機会をもつ	・引き続き「早寝、早起き、朝ごはん」を呼びかける。 ・運動を存分にできる体育の学習方法を定着させる。 ・命を守るための力をつけるために、リアリティのある訓練や安全教室を実施する。 ・歯磨きの励行で、むし歯予防に努める。	・生活科、社会科、総合的な学習の時間等において、地域教材を開発する。 ・実習や出前授業等において、地域の方・保護者の協力を呼びかける。 ・積極的に魅力的な地域教材の開発や研修の機会をもつ

3 その他の課題